

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100010		
法人名	社会福祉法人 南山会		
事業所名	憩いの里富津		
所在地	富津市青木2丁目20番地16		
自己評価作成日	平成27年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6F604		
訪問調査日	平成27年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は明るく、オール電化設備がなされ、廊下はゆとりある広さになっています。また、各居室にはトイレ、洗面所が設備され、入居者様にとって安全で過ごし易く暮らせるように配慮致しました。毎月行う行事には地元のボランティアを招いたり、近隣の保育園児との交流も行っています。入居者様とご家族様が面会しやすくなるよう、施設利用料のお支払いは施設の窓口に来て頂くようにしています。協力医は24時間対応となっており、安心できる医療体制を整えています。入浴は週3回あり、入居者様にとても喜ばれています。入居者様が伸び伸びと生活できるように個人の尊厳を尊重しながら支援させて戴いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富津公園があり、自然に囲まれ花や緑を楽しめる。近くには利用者が買い物を楽しめるショッピングモールなどの施設が多い。理事長は、常に福祉事業に力を注ぎ、介護になっても快適な人生を送れるように取り組んでいる。建物は茶色いレンガ造り。利用者はリビングで寛ぎ、食事は地域の食材を使い、美味しい食事が提供される。IHクッキングヒーター対面式のキッチンカウンター、赤の食器棚が印象的である。法人は内装、インテリアにこだわりを持っている。医療は24時間対応。月2回の往診、訪問看護も行って安心である。災害対策として、消防署の協力で避難訓練を行っており、緊急時に備えている。地域との連携を図り、安全の確保を図っている。職員は日頃研修を行い、研鑽に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関や事務所内の見やすい場所に掲示し、月一回の運営会議等で再確認を行いながら理念を共有し、日々実践している。	理念は、職員一人ひとりが利用者の立場に立ったサービスを提供しつつ、介護計画を作成し適切なサービスを提供し、質の高いサービスを行う。職員は共有しながら実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩ではなじみの地域の方々と気軽に挨拶を交わしており、又、地元自治会や近隣保育園の行事に参加したり、地域ボランティアを招く等交流の輪を拡げている。	地域の関わりを大切にしている。保育園、自治会の行事の参加や地域サークルボ、ランティアでフラダンス、歌のサークルなど交流を深め、人々の関わりを強化している。ショッピングや散歩で挨拶を交わしたり、楽しい時間を過ごしている。法人は福祉に力を注ぎ、認知症になっても自由な暮らしの支援をしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	突然の施設見学にも対応し、介護方法についての相談や問い合わせに応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地元の評議員、利用者家族、市役所などの参加があり、入居者との交流が出来ているが、さらに運営推進会議を実施して外部の方の意見を頂き、話し合いながらサービスの向上に努めて行く。	運営推進会議は年3回行われている。参加者は市役所、自治会役員、利用者家族の参加で行われ、一年間の流れの結果報告をしている。消防署参加で行われた訓練、行事、レクリエーションなどの様子を話し合い、色々な意見を頂き、これからのより良いサービスに繋げられる様に考えている。法人の理事会も同日に開かれ、地域からの情報や、地域の交流状況、避難訓練への参加など話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは積極的に連携を図り、協力関係を築いている。	市との連携は強く、福祉事務所職員は生活保護受給者の為の手続きなどで、訪れる事が多い。市の職員は行事にも参加して頂き利用者とのコミュニケーションを取っている。市役所と連携を図りつつ、要望や相談をし、これからの福祉を充実させたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを全職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実施している。 利用者の帰宅願望が強い時のみ、安全上止むを得ず、玄関の施錠を行うことがある。	職員は帰宅願望の強い利用者に優しくそっと声を掛け、気持ちを落ち着かせる。気持ちが落ち着くと、職員と一緒に散歩に出かける。出来る限り施錠は行わないように心がけている。職員は協力しあい、自由で安全な暮らしが出来る。見守り、声掛けを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて学びの場を設け、職員の意識向上を図り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	自立支援や成年後見制度については会議の席等で学んでいる。成年後見制度については事例があり、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な点や疑問点は、理解・納得して頂けるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部に苦情相談窓口を設けており、契約書に記載するとともに説明を行っている。また、外部苦情相談窓口についても契約書に記載し、案内を行っている。 月1回の利用料支払いを窓口で行い、家族との信頼関係が築けるよう、努力している。	利用者家族の相談・要望などは、行事や会議に訪れた際に聞き、サービスに反映させる。家族には月1回行事の様子を写した写真や文章を送っている。家族が利用者に逢いに来て頂けるように、利用料の支払いを窓口で頂くようにしている。工夫する事で少しでも利用者の気持ちを受け止めたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談や月例会議の際に、職員の意見や提案を聴き、多くの意見を取り入れている。	ケース会議で職員の意見、要望を聞く機会を作っている。年2回理事長が個別の面談を行い、人間関係、職場の悩みなど、メンタルヘルス対策を行っている。職員は新人職員の為に勉強会を行い、良い支援が出来る様に研鑽に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や能力によって給与水準を定めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に参加したり、定期的に内部で研修を行っている。 月一回の会議の席でも研修を行い、人材を育てるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互訪問があり、ネットワーク作りは行っているが、勉強会は行っていない。他事業所とは交流する機会をもち、サービスの向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず家族同伴の上で本人に見学に来て頂き、面談を行っている。要望等を傾聴し、安心・納得して頂けるよう、説明や話し合いを行い、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ず本人同伴の上で家族に見学に来て頂き、面談を行っている。 要望等を傾聴し、安心・納得して頂けるよう、説明や話し合いを行い、信頼関係が築けるように努めている。 また、少しでも疑問等があれば、いつでも気軽に問い合わせ下さるよう案内している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のお話を傾聴し話し合うことで、その時に必要としている支援を見極めている。場合によって、他のサービス利用についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備(配膳・野菜の皮むき・盛り付け等)や後片付け(食器洗い・食器拭き・テーブル拭き等)、洗濯物たたみ、居室内の掃除やシーツ交換、菜園の草取りや水かけ、散歩時に他入居者の車椅子を押して頂く等、一人一人の有する力に応じて出来る事をして頂き、暮らしを共にする方々同士の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と共に本人を支えていけるよう、家族とは小さなことでも常に連絡を取るようになっている。必要であれば面会に来て頂き、直接本人と話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年始の挨拶廻りや食事会・墓参り、以前住んでいた商店街への買物等、家族や知人との外出を容認し、関係が途切れる事の無いよう支援している。	家族とお墓参り、外食で好きな物を食べる。住み慣れた地域で自分らしく生きる為に地域との関わりを深め、買い物や散歩で挨拶をし、会話を楽しむ。知人・友人との交流が途切れないように職員は継続的支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立することが無いように食事席等を配慮している。 また、日課の散歩時に車椅子を押していただいたり、居室を自由に行き来して一緒にテレビを視聴されたり談話されるなど、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も経過を伺い、必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言葉の中から希望や意向の把握に努め、その人らしく暮らしていけるよう検討している。	本人の思いや意向は日常的な会話の中から汲み取り、家族や関係者からの情報を得る様にしている。日々の生活の中で本人の様子はケース記録に記載している。本人の視点に立って、どの様に暮らすのが良いか検討しつつ把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境やサービスの利用経過については入所に情報を収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体状態や1日の過ごし方を把握し、その日その時の状態に合わせて対応し、過ごして戴いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、課題とケアの在り方について話し合いを行っている。 その意見に基づき、ご本人やご家族と話し合った上で介護計画を作成している。	利用者の心身の状態や、日々の記録をカンファレンスし、家族と相談しながら介護計画を作成している。家族の要望や変化が見られた時には、介護計画の見直しが必要であると考えている。職員は個別の記録を詳細に記入している。夜の勤務中に起きた出来事などをしっかり伝え、コミュニケーションが出来る事が良い支援に繋がると考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、個別記録票に詳細に記録することで情報を共有している。 必要に応じてその都度話し合いを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、その時々本人や家族の状況やニーズに対して柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園での花見やドライブ、買物などで地域の方々と触れ合う事で生活を感じ取る事が出来るように支援している。また、食材には地元産の安全な農海産物を出来るだけ取り入れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2回/月の往診があり、問題があれば医師・家族・事業所が相談の上、専門医を受診して頂き、適切な医療が受けられるように支援している。協力医は24時間対応となっており、急変時はその都度指示を受けたり往診を依頼している。	協力医療機関は、急変時24時間対応で、緊急時の往診・訪問看護も行っている。月2回医師による健康診断がある。協力歯科医療機関は近く、通院は家族にお願いしている。病院関係者と連携を深め、安全で安心なサービスが受けられるように心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師による1回/月の訪問看護があり、情報や気づきを伝え、相談している。情報や気づきは医師にも報告し、適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が出来るよう、病院関係者や家族と連携を取り合って情報交換を行い、退院後に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人・家族・関係機関・主治医と十分に話し合い、方針を共有している。	ターミナルケアは現状は行っていない。契約書を交わす時点でお話している。重度化した場合は主治医と相談し、早期に本人家族の対応をし、医療行為が必要になった場合は退去支援を行っている。職員は普通救急講習を受講している。応急手当や心肺蘇生ができ、心強い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は普通救命講習を受講しており、応急手当や心肺蘇生の方法を習得している。また、緊急時の対応については定例会議の場で確認・周知を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により避難訓練を年1回実施、また、自主的に年1回実施している。スプリンクラーを設置し、災害時に際しての役割分担や連絡体制については各職員が認識している。	消防署訓練は年1回行われ、避難訓練の協力者が増える様に運動している。自主訓練は夜の訓練に力を入れている。緊急時に必要な連絡先、小学校までの避難経路の確認、役割分担、備蓄品の確保など、いざという時の為に備えている。地域との連携を深めている。自宅が近い職員が多く、協力体制は良い。	災害対策。 特に夜に起きた場合の火災や慈恵の避難訓練を、再度実践で行われるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人権や人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を行っている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねる言葉は使用しない。親しき仲にも礼儀あり。職員は人生の先輩に対して敬意を表すように心がけ、ふれあう中でも注意を払っている。室の中にトイレが設置されており、羞恥心に配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いやりや希望を表す事が出来るよう働きかけ、納得して暮らしていけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や日課の体操など、時間の決まりはあるが、それ以外は本人のペースで過ごしている。買物や散歩など、出来る範囲で一人一人の希望に添えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら着替えの準備をするなど、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう毎食メニューの掲示を行い、食事前には職員が読み上げている。食事の準備、盛り付け、配膳や片付け等、一人一人の能力によって出来る事を職員と一緒にやっている。	毎日手作りの食事が提供され、職員は利用者の楽しみにしている食事を、心を込めて作っている。お手伝いの出来る人は協力し、少しでも体を動かそうとしている。食前には口腔体操、メニューの読み上げを行う。食事は色、匂い、盛り付け、五感の刺激に配慮された、心のこもった食事である。デザートも付き、楽しみの一つである。食材は地元の新鮮野菜、くだものを使い、安心である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人一人の食事量、水分摂取量を把握し、一人一人の状況に合わせて支援をしている。苦手な食べ物については栄養面に配慮したうえで代替え品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力や口腔状態に応じて、介助及び声掛け・見守りのいずれかで口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間での声掛けやトイレ誘導を行うことで、日中はリハビリパンツより布パンツ使用となった。オムツ使用の方でも日中はトイレ誘導を行い、オムツの使用を減らすように努力している。	日中、排泄は布パンツで生活出来る様に声掛け支援をし、誘導している。夜は安全で安心の為にオムツで対応している。自然な排泄に心がけ、食事は繊維質の多い食材、水分補給は乳製品や、室でもお茶が飲める状態にセットされている。適度な運動をさせる事も考えている。利用者の排泄が辛い時は、医師に相談をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には繊維の多い食品や乳製品を取り入れ、日課の体操以外にも運動を行ったり、いつでも自由に水分補給が出来るようにリビングルームにお茶をおいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決まっているが、それに合わせて自分で着替えを準備したり、順番を確認し、楽しみにされている。入浴の方法については一人一人に合わせた支援を行っている。また、季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯などを用意し、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの意向を第一に考え、入浴が出来るように支援している。入浴はユニットごとに分かれ、曜日を変えている。週3回の入浴を利用者は楽しみにしている。中には入浴を拒否する利用者には、何度か声掛けを行い、チームプレイで入浴させている。どうしても無理な場合は、清拭に変えている。季節に合わせた菖蒲湯やゆず湯、香りを楽しみ、リラックスする。清潔保持の為に入浴を勧めている。血液の循環も良く、夜の睡眠にも繋がる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて、自由に休息して頂いている。利用者によっては時間によって離床の声かけを行い、夜間良眠出来るように支援している。夜は就寝時間を決めず、本人の希望に合わせて就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにより、情報を共有し理解している。症状に変化などがあった場合は速やかに医師に連絡し、適切な指示を仰ぐとともに職員に申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や草取り・洗濯物たたみやおしぼり配りなど、一人一人の力を生かした役割を担う事で張り合いのある日々を過ごして戴けるように支援している。 また、季節の行事や誕生会を行うことで楽しみや喜びを感じて頂いたり、散歩やドライブ等で気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	天気の良い日は施設周辺を散歩し、景色を眺めたり草花を鑑賞しながら楽しんでいる。一人一人の希望に添えるよう、希望があれば買物や散歩、ドライブ等戸外に出かける事が出来るよう支援に努めている。	外出の支援は個々に合わせて行っている。ショッピングを楽しみ、ドライブでお花見、公園で季節の植物や風景を楽しむ。玄関にプランターが置かれ、季節の花、いちごが植えられ、職員と一緒に世話をしている。遠くに行けない利用者にもちょっとした気分転換になります。誕生日に外食を楽しみ、住み慣れた地域で自分らしく生きる為にも、外出する事が大切。地域の人にも認知症の理解にも繋がり、積極的に行う事が支援に結びつくのではないのでしょうか。	外出支援にももう少し力を入れて欲しい。 利用者で外出を拒む人も居るが、気分転換やストレス解消にも良い働きになると、地域の人にも認知症の理解を深めるチャンスに繋がるので、是非積極的な支援をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はお金を所持されており、希望に合わせて買物に行き、ご自身で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を受け継いだり、職員が家族へ電話をかけて取り次いでいる。手紙のやり取りは本人の要望に合わせて支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンが設置され、食事時は色々な音や匂いなどで生活観が感じられる空間になっている。 廊下やリビングには四季折々の植物や果物を飾り、季節を感じて居心地良く過ごせる工夫をしている。	玄関には季節のお花が飾られ、廊下は掃除が行き届き、壁には利用者の思い出の品が飾られている。リビングは対面キッチンで食器棚は赤で統一されている。オール電化、利用者はリビングで寛ぎ、会話やテレビ、おしぼり作りなど、利用者は自分の出来る事を行っている。職員は見守りながら食事の支度を行っており、壁には行事の写真などがおしゃれに貼られている。明るいリビングは利用者たちの憩いの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはゆっくりとテレビ視聴や団欒が出来るようになっている。 また、玄関・ホール・テラス・廊下にはベンチや椅子を配置し、一人一人が好みの場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ち込んで頂き、写真や人形、お花など好みの物を飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間は利用者の使い慣れた家具、お花、家族の写真などが飾られ、自宅とのギャップが無いように工夫している。個別のトイレが設置され、プライバシーに配慮されている。自宅との違いによる不安やダメージを最小限にする為に、家族と相談を自分らしく自立できる居間にする為の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はトイレと洗面所が設置され、手すりはトイレや廊下等、要所要所に設置してある。各居室にトイレがあることで、トイレに迷うことなく安全で自立した生活が送れる環境になっている。		